

復興支援異分野連携プロジェクト

第5回異分野の企業、団体等の連携による災害復興イノベーション会議「被災地域からの報告（映像中継会議ほか）と支援側中間報告」報告書

【概要】

開催日時：平成23年8月12日（金）14:30～17:30

開催場所：秋葉原 UDX 4F UDX オープンカレッジ

参加人数：参加者数:36名

【会議開催目的】

これまで復興支援のための支援シーズ側としての各企業や大学、研究機関やNPO、業界団体などから各種提言提案、製品やサービス、アイデア等が集まってきている。テーマや方法論を絞りテーマ別部会やコンソーシアムの形成、プロジェクト化なども進行中である。本会議は、ペアリングのマッチングを行うための被災地の現状、ニーズの把握を目的とする。

【会議内容】

●プロジェクト趣旨説明、復興支援進捗状況、復興支援進捗情報例

新産業文化創出研究所 所長 廣常啓一

＜プロジェクト趣旨説明＞

1. 復興支援異分野連携プロジェクトの位置づけ
2. ナレッジプラットフォームでのワークショップからプロジェクト実現、そして産業創出までのフロー
3. 異分野の多様な集合体から連携プロジェクトの組成と導入実施まで
4. 「ペアリング支援」と「支援プロジェクト支援」
5. 地域自立型推進組織組成のための資金マッチングの考え方
6. 提言情報発信、バーチャルマッチングのためのポータルサイト
7. 地域における食とヘルスサービス（ドクターズキッチン含む）のビジネス展開例
8. 被災地域農畜水産物、加工食品等、集荷集配と購入支援
9. 復興支援「がんばれ東北ギフトセット」（お歳暮企画）
10. 地域エネルギーの活用による農畜水産物の6次産業化、先端技術・IT活用
11. 次世代ビークル（EV他）知の拠点をプラットフォームとした産業創出
12. 訪日観光促進のイノベーションによる復興支援
13. 花と緑がもたらすイノベーション拠点と緑の街づくり、復興花博

<復興支援進捗状況>

第1回目の復興会議から今回の第5回までの会議（全19回）を、研究会、分科会を含めて報告。

- ・第1回異分野の企業、団体等の連携による災害復興イノベーション会議
- ・第2回異分野の企業、団体等の連携による災害復興イノベーション会議
- ・第3回異分野の企業、団体等の連携による災害復興イノベーション会議
- ・震災復旧・復興・支援関連情報の一元化とポータルサイト開設（ICT復興支援部会）
- ・停電・節電ソリューション開発研究会 計画停電に対応する節電ソリューション、節電ビジネスの研究

①

- ・関西発・災害復興 ICT イノベーションミーティング 第1回
- ・地域食材価値創造研究会被災地域農畜水産物、加工食品等の価値創造
～集荷集配と購入支援、農商工及び医食農連携、6次産業化を目指して～（第1回の復興支援部会）

- ・第1回 花と緑の街づくりによる復興構想会議「グリーン産業ソリューション&国際復興花博構想」
- ・第4回 異分野の企業、団体等の連携による災害復興イノベーション会議
- ・地域食材価値創造研究会被災地域農畜水産物、加工食品等の価値創造（第2回食の復興支援部会）

- ・関西発・災害復興 ICT イノベーションミーティング 第2回
- ・停電・節電ソリューション開発研究会 計画停電、15%節電に対応する課題解決（ソリューション）と対応ビジネスの研究②

- ・医療健康福祉分野のイノベーションにおける震災復旧・復興支援ソリューション（医療健康福祉部会）
- ・停電・節電ソリューション開発研究会 大型設備施設を要せず7月から可能な計画停電・15%削減に対応する課題解決策（ソリューション）と対応製品・対応ビジネスの研究③「省エネロボ」
- ・緑の街づくり部会 第2回花と緑の街づくりによる復興構想会議「グリーン産業ソリューション&国際復興花博構想」

- ・エコエネルギー技術、地域エネルギー事業会社、EV等次世代ビークル技術を活用した街づくりによる復興支援異分野連携会議
- ・復興支援異分野連携プロジェクト「被災地域支援連携会議」仙台の被災産業・企業の現状と被災地ニーズ
- ・停電・節電ソリューション開発研究会 計画停電、15%節電に対応する課題解決策（ソリューション）セミナー

<復興支援進捗情報例>

当プロジェクトのワークショップは合計19回開催してきた。復興支援に関する進捗状況を確認するため、本プロジェクトのワークショップにご参加いただいた全ての方々約350名に対して、「【復興支援事例】のお願い」として8月2日（水）に一斉にメールにてご

協力を依頼した。その結果、40社近くのご回答をいただき、本ワークショップにて公開可
とご回答いただいた企業、団体の皆様の復興に関する事例を紹介した。今回紹介できない
企業、団体においても、様々な形で支援を行なっている。

● 陸前高田市とのテレビ中継会議

陸前高田参加者

- ・ 陸前高田商工会 事務局長 中井 力氏
- ・ 陸前高田市議会 東日本大震災復興対策特別委員長 副議長 伊藤 明彦氏
- ・ きのこのSATO販売株式会社 代表取締役 佐藤 博文氏
- ・ 陸前高田総業 代表取締役社長 中平 正明氏
- ・ 陸前高田総業 村上 剛氏

【ご挨拶（伊藤氏）】

5ヶ月が過ぎ、道路等は通れるようになっているが、まだ様々な処理に追われている。

【被災の状況（中井氏）】

商業活動の80%は被災。（企業、場所、物資等）

商工会に属する65%はやる気を取り戻しているが、35%は被災の影響、後継者等の問題で
厳しい状況にある。

【きのこのSATO販売株式会社（佐藤氏）】

土木コンサルを行っている。

仮設住宅に入っている人たちも2年後には出て行かなくてはならなくなる。そのような中、
住む場所の確保というのが重要課題となる。元々あったコミュニティーを作りたい。市の
方針を待つのではなく、自分たちでできることから進めている。

施設農業（きのこ栽培）

設計業を営んできたが、景気の悪化にもかかわらず、リストラはしないと決意。別の職場
をとということで、平成15年からきのこ栽培を開始した。この震災では、このきのこ栽培施
設も打撃を受けた。共働きの多い陸前高田では女性の雇用がなくなると結局は他県へ移動
せざるを得なく、ますます人口減少につながっている。施設農業としてきのこ栽培を再生
させ、女性雇用も行える100人規模の雇用創出をめざしたい。ただし、元の施設、やり方
にもどしただけでは経営的に難しい。新しいエネルギー、例えば木質バイオ発電、風力や
太陽光などを利用し、新しい知識や技術をマッチングしながら再生を図りたい。

【陸前高田総業（中平氏）】

太陽光などを用いた仮設住宅建設や農地の活用を模索している。
土壌の消臭を行っている。

【地場産業の特徴（中井氏）】

第一次産業中心

人口流出が多くなっている。

日本の復興モデル都市となりたい

【復興プラン（伊藤氏）】

復興計画検討委員会を設置

<検討事項>

- ・湾口防波堤、沿岸部防潮堤
- ・管制道路の海からの距離
- ・気仙沼、今泉間道路
- ・防災メモリアル公園案

リアルなマッチングができるように望んでいる。

【公的施設、学校や病院などの現状（伊藤氏）】

多くの小中学校が被害にあった。5つの学校は水没した。学校は避難者の生活場所となっていたが、8月10日にすべて仮設住宅へと移動。現在でも校庭は仮設住宅として使われている。体育館は支援物資で埋まっている。授業は、別の学校同志が合同で授業をおこなったりしている。

陸前高田では震災前から医師不足であった。震災では岩手県立高田病院なども4階まで浸水。7月には仮設の診療所を開設したが、どちらにしろ長期支援を行ってもらえる医師を探している。

【観光に関して（伊藤氏）】

平泉は世界遺産なので、そこまでの道を活用し、観光ルートとしたい。宿泊を陸前高田、観光地を平泉など。

【その他】

- 商業活動を活性化する必要がある。中小企業の整備が急務。
- 二重債務が問題。再スタートの融資を受けても返していけるかわからない。
- 自力更生できる支援を行うことが大切

【ビーサードジャパン 阪 彰敏氏】

陸前高田市の復興 100 年計画を立案中。

- ①「自然災害との共生都市」モデルとなるまちづくり
- ②農業・水産業・工業が連携した「未来都市」作り
- ③陸前高田市の先人の智慧に、新たな知見を加えて次の災害に備える「次世代防災システム」づくり

1. 震災記念公園計画
2. 集落再生・市街地再生計画
3. エネルギー&バイオフィーム
4. 長部ファクトリーポート
5. 広田ダジュール（広田湾 長期滞在農漁村）

【国際ゲーム開発者協会日本（IGDA日本、代表 新 清士氏）】福島県における風評被害を吹き飛ばすべく、イベントを開催。Game Jamを通じて復興のシンボル、更にはゲームクリエイター人材育成へとつなげる。

【株式会社電通国際情報サービス 武田 慎祐氏】IT 先端技術のプロトタイプを作る。復興関連では、ポータルサイトにおけるモデルを検討中。

【有限会社バイオフィューチャー 吉岡 克祥氏】

陸前高田市、石巻市の支援報告（無償支援）

油吸着分解処理を行うことのできるオイルゲーターの散布を行った。

油臭、魚臭の分解消臭を行う液体バイオの散布を行った。

【ウイアーエンジニアリング株式会社 石本 正信氏】

1. 病院内から現場へ遠隔で指示できる
2. 診療所・介護サービスでの情報の共有が可能
3. レセコンに比べて費用が安価

以 上